第５回与謝野町産業振興会議　会議報告書

日　時　　令和４年３月１０日（木）午後７時００分～午後８時３０分

会　場　　ＺＯＯＭ（オンライン）

出　席（敬称略）

鳥垣　壯司	佐々木　由美子	岩西　拓男	長島　由昇
三井　真里	塩野　浩士	木原　綱雄	斎藤　善規
細見　悠人	辻　拓哉	大月　颯真	

欠　席（敬称略）

今井　信一	羽賀　信彦	小林　厚美	浪江　敏一
山﨑　信之	大江　卓	杉岡　秀紀	濱田　祐太

事務局

商工振興課　小室課長	同　三田主幹	同　大上主幹	同　井上主任
同　糸井主事	農林課　矢野主幹	観光交流課　市田主幹	企画財政課　松本主任
商工会　黒田経営支援員			

傍聴者　１名

＜会議要旨＞

１．開会

２．事務局から

◆よさのみらいトークワークショップについて

◆与謝野町まちづくりシンポジウムの開催について（与謝野町地域経済分析事業）

３．議事

（１）前回の振り返り

（２）中小企業振興基本条例の改正に向けて（グループディスカッション）

◆「前文」の見直し作業を各グループごとで議論する。

他自治体の事例を持ち寄って議論。

◆全体へ共有（協議報告）

Ａ班（発表者：岩西委員）

アメリカのポートランドを調査してきた。ポートランドは全米住みたい街１位にも選ばれたことがあり、日本でいうと博多や札幌くらいの規模である。

ポートランドを調査した理由として、ポートランドといえば「コンパクトシティ」「ローカルファースト」「自然・住民にやさしい」「Keeep Portland weird（自分らしくみんな違っていてもいい、ずっと変わり者でいようよう）」という考え方が根付いている。その中で、中小企業振興基本条例にも関連していることとして「ローカルファースト」の部分が非常に共感を持てた。「ローカルファースト」は日本語訳すると地元第一主義であって、地元の生産者やブランドなどを大切にする意識が高く全国でチェーン展開しているお店よりも個人で経営しているお店が圧倒的に多い。例えば、フードカートといったいわゆるキッチンカー販売や地元シェフは地域資源や食材を積極的に活用し、地産地消を実践している点も地域経済循環が成立されていると思う。また、地域住民、事業者が地域の人々やお店をサポートしようという姿勢が強いことで、自然と地域の中でお金が周り、住民同士の交流が豊かになっていく好循環が広がる街づくりがされていると感じた。

冒頭の４つの考え方が根幹にあるからこそ「とりあえずやってみよう」というチャレンジ精神と新しい挑戦を受け入れ応援する空気感がポートランドには充満していることが起業家や移住者が多い秘訣でもあると感じた。

Ｂ班（発表者：長島委員、辻委員、大月委員）

他自治体の事例を調査してきた中で、前文が無い事例もあり前回会議でも前文が長いといった意見があり、前文を無くすことも簡潔にする一つの方法だと思う。誰にでも伝わる内容にする必要があると思う。（辻委員）

他自治体事例を比較する中で、同じような言い回しや条文の構成になっているため、個性を持たすためには他にはない表現や言い回しを取り入れてもいいのではないか。（大月委員）

辻委員からもあったように、子どもから高齢者までが分かる内容にする必要がある。また、現在ではなく未来を見据えた議論が出来た。（長島委員）

Ｃ班（発表者：斎藤委員）

他自治体の基本条例を比較する中で、同じような内容のものが多くインパクトが弱い印象を受けた。

言い回しについても、難しく理解しづらい部分が多かった。やはり、誰にでも伝わるためにもコンパクトでインパクトのある条例にしていく必要があり、逐条解説などに頼らない条例にする必要があるのではないか。

インパクトのある条例にするためには、万人受けのしない内容にするのも反対に受け入れられるのではないか。

熊本県の条例の中で、社会が事業者を育てるという文面があり、共感が持てるといった意見も出た。

意欲のある事業者を育てていく条例にしないといけない。チャレンジ精神のある事業者が成長していけるような前文にしていく必要がある。

次回の会議に向けて

◆調整中

次回会議内容（案）

◆次回以降日程について

＜第６回＞：調整中（４月もしくは５月予定）

４．　閉会